


在外研究員研究報告書

2018年11月22日 受付

所 属	日本語・日本文化教育センター		氏 名	李 長波  印	
職 名	教授				
研究課題名	分析哲学における言語研究の学術史的研究				
研究期間	2017年 4月 1日 ~ 2018年 3月 31日				
滞在期間 ・滞在地 研究調査先	滞在期間	滞 在 地	研究・調査先		
	2017年3月31日～7月1日	オックスフォード	オックスフォード大学図書館		
	2017年8月29日～9月7日	オックスフォード	オックスフォード大学図書館		
	2017年9月8日～10日	ロンドン・ケンブリッジ	大英図書館・ケンブリッジ大学図書館		
	2017年9月11日～2018年3月30日	オックスフォード	オックスフォード大学図書館		
研 究 費	300万円		研究成果の概要	別記 4,000字程度	
発	題 目 名	発表学術誌名 Vol. No.		発行年月日	
表	著 書 名	発 行 所 名		発行年月日	
	演 題	講 演 学 会 名		講演年月日	
	The search for linguistic textbooks in London during the early 20th century	Translation and Transformation The formation of new concepts in Britain and East Asia		2017年9月7日 於オックスフォード大学中国研究センター	

在外研究報告書

研究課題：分析哲学における言語研究の学術史的研究

研究期間：2017年4月1日～2018年3月31日

研究先：Oxford University Faculty of Oriental Studies

研究計画：滞在予定の12ヶ月のうち、3か月ごとに、①文献収集、②研究者との情報交換、③成果の取りまとめ、④他の大学の研究者との交流と学会活動と考えている。

研究方法：文献学的には20世紀分析哲学と言語学に関する資料収集と、それを踏まえた、哲学史、言語学史的分析を行う予定である

【資料収集】

・ラムジー、オグデンとヴィトゲンシュタインとの関係についての資料収集

1. ラムジーの1500頁を超すマニュスクリプトが、アメリカのピッツバーグ大学ヒルマン図書館に、「ラムジー・コレクション」として保管されているが、在外研究期間中、Oxford大学ボードリアン図書館、ケンブリッジ大学図書館で数回にわたる資料調査をした結果、両大学の図書館には、上記コレクション以外のラムジーのマニュスクリプトは発見できなかった。

2. ラムジー、オグデンとヴィトゲンシュタインとの関係を示す新たな資料についても、すでに *Letters to C. K. Ogden with comments on the English translation of the Tractatus Logico-Philosophicus Ludwig Wittgenstein; edited with an introduction by G. H. von Wright and an appendix of letters by Frank Plumpton Ramsey, Oxford: Basil Blackwell, 1973.* に収録された以外のあらたな資料の発見はできなかった。

3. 上記二つの資料収集の目的は果たせなかったが、C. K. Ogdenについては、C. K. Ogden: *A Bio-bibliographic Study*, W. Terrence Gordon, Metuchen, N.J.: Scarecrow Press, 1990 に基づいて、時系列に C. K. Ogden の論文著書を点検したところ、*The Meaning of Meaning* (日本語訳『意味の意味』), 1923 初版の刊行時の C. K. Ogden は、Ernst Cassirer の『シンボル形式の哲学』第一巻『言語』を強く意識していたことが判明した。

これによって、現段階では、ラムジーの哲学については、すでに公開されている『ラムジー哲学論文集』(伊藤邦武他訳)のほか3冊によるしかなく、当初予定していた、「ラムジー、オグデンとヴィトゲンシュタインとの関係を示すあらたな資料を発見し、従来よりあらたな知見を得る」という計画を下記のように修正することになった。

【研究内容】

The Meaning of Meaning が 1923 年初版刊行当初予告していた Word Magic という単行本の所在を確認し、C. K. Ogden は、Ernst Cassirer の『シンボル形式の哲学』第一巻『言語』への批判はどのように行われていたか、に焦点を絞り、研究を進めることであった。その結果、Word Magic という単行本は、石橋幸太郎訳『意味の意味』の C. K. Ogden 著書リストに刊年、出版社を明記していたにもかかわらず、実在しないことが判明した。この成果は、2017 年 9 月 6 日 Oxford 大学中国研究センターで開催された、Translation and Transformation The formation of new concepts in Britain and East Asia において The search for linguistic textbooks in London during the early 20th century, と題して発表した。

本在学研究の後半（2017 年 10 月以降）、分析哲学が、1930 年代、中国、日本へ英文学の外国人教師として北京、東京に滞在したウェイリアム・エンブソンが、東アジアにおける分析哲学の受容に大きな役割を果たしていたことが判明したので、帰途、北京に立ち寄り、北京での今後の調査について関係者と打ち合わせをすることが出来たことは、今後の研究への準備とすることが出来たことは望外の収穫であった。

【その他】

在外研究申請する際、本研究とは別に、在外研究の成果の教育への還元を想定し、イギリス、フランス、ドイツの研究者と積極的に交流する予定であった。しかし、家族の入院とその看病のため、7 月初めから 8 月末までの約二ヶ月にわたって一時帰国を余儀なくされ、在外研究復帰後は、その精神的なダメージから回復すべく、12 月までボードリアン図書館でのデスクワークに集中していたが、EU 査証申請中に、旅券紛失というハプニングに見舞われたために、ドイツ、フランスへの渡航は実現できなくなり、当初の目的はほとんど果たせなかった。オックスフォード大学 St Anne College 副院長 Robert Chard 教授（中国の礼学のご専門）を数回訪問したり、同学院長主催の晩餐会に招かれたりするほか、オックスフォードに滞在中の各国の研究者との交流に止まった。

そうはいつても、一時帰国の期間を除く、やく 10 ヶ月間のイギリス滞在中の見聞は、18 年春学期から「日本とアジア」、「比較文化論」その他の授業の内容に反映させることが出来ただけでなく、8 月、10 月、計四回にわたる中国の上海、紹興、大連での講演の主な内容となった。学会発表以外の講演は以下の通りである。

講演 1 日本文化、日本社会与日本人、上海康恒学院、上海康恒環境、2018 年 8 月 24 日

講演 2 漫談日本文化和中日关系、紹興文理学院医学院、2018 年 8 月 27 日

講演 3 日本的未来与中国的未来、大連外国語大学日本語学院、2018 年 10 月 17 日

講演 4 日英比较文化视角下的日本人集团心理和行动方式分析、大連外国語大学大学院、2018 年 10 月 18 日